

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	(株)北海道福祉事業協力会	代表者	八戸 翼	法人・事業所の特徴	個々の利用者の生活の場を出来る限り以前の生活のまま暮らしていけるように、通い・訪問に力を入れて日々支援している。また、通い・泊まり・訪問は介護者不在などの緊急時には随時対応できるよう考えている。職員・利用者共にアットホームな雰囲気となっている。
事業所名	『さくら丘』新琴似	管理者	森山 隆宏		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人(書面)	0人	1人	1人(書面)	1人	1人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	1. 初期支援 初期の関わり時、情報量の少ない利用者情報に関して、それぞれが関わる場面に応じ、出来るだけ早期に情報収集が出来る様、工夫を行っていく。	ご家族やご利用者様本人との会話や、気づいたことなどはグループラインやミーティングまたアプリでの情報共有を行い、スムーズに対応出来るよう取り組んでいます	職員がご家族と接する機会が少ない。	1. 利用者様本人の思いを、関係を作りながら汲み取り、情報は職員間で共有しながら良い支援に繋げていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	なし	なし	今年度は久しぶりに事業所での開催ができた。	なし
C. 事業所と地域のかかわり	なし	密を避ける為、行事等は最小限となり、かかわりを持つ機会を設ける事は出来なかった。	町内会行事も中止となり、関わる機会は持てなかった。	なし
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	なし	なし	議事録見る限りでは、感染症予防の為、地域には「参加出来なかった」と認識しています。	なし
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナ禍でのあり方を模索する	運営推進会議の再開がもっと早い時期に行えると想定していたが、現在に至り運営推進会議を活かした取り組みとしては、出来ていない。	運営推進会議が、書面での開催だった為、なかなか難しかった。	通常の前対面による運営推進会議を行い、事業所と地域の方達との交流を深めていくように開催する。
F. 事業所の防災・災害対策	なし	なし	なし	地域の防災訓練が行われる時に参加できるようにしていきたい。